

夕涼み

小野澤繁雄

手すりその真ん中が光ってる五領沼鯉をみてまたすいれんをみる
出てみると乗り合うことのあることに人のカラダがこんなに近い
若きころ齡がこたえになるものとしていたともわれの齡聞く
レクサスできている人ら夫婦連れ畑すみには花がいくつも

ここにもうはじまることはないながらアパートをみる若き等出入る
人に家に帰^きしつつありておのおのに犬の生活隣人のごとし
歩いては歩き始めた大人たち歩き仲間は親しあわれに
古い通りに古いくらしがあるとところ三階建ては放課後学童クラブ
練習の日か人がでていて球を打つ球はながれて球の大きさ
椅子三つ夕のすずみをしているか路地の奥にも兄弟がいて